

平成 26 年度の博物館実習 (学内) における企画展示

山内 利秋

博物館実習のうち、学内実習における企画展示の実施は 4 回目を迎えた。今回のテーマは『キズク・延岡』というテーマであるが、若干わかりにくいものであったかもしれない。しかしながら、受講生の地域社会に対する問題意識の高さには注目すべきものがあった。これについて若干述べたい。

平成 26 年度は暦の関係でこの授業の開始日がずれ込み、4 月 14 日を第 1 回とした。可能であればゴールデンウィーク前の翌週の 4 月 21 日まである程度テーマを固めたいと考えていたものの、実習生の意見は集約せず、結果 5 月 19 日までずれ込んでしまった。企画の決定までには様々なアイデアが出されたが、途中から「知らない身近」が重要なキーワードとなり、ここから「地域社会の課題と交通政策」と「近年激増するカメムシ」に集約され、最終的には前者に決定された。実際に実習生達がこのテーマでどこまでやっていけるのかという不安はあったものの、時間をかけた彼らの合意形成までのプロセスを重視する必要があった。

しかしながら、こうした社会性の強いテーマは展示表現としては難しいものでもある。そこで「問題設定」⇒「写真によるイメージ・グラフによる説明」⇒「結論としての実習生の意見」という大枠をつくるように指導した。だが内容的に学生自身の普段からの問題意識が如実に反映されるものとなり、常にこの点に注意を払っている者とそうではない者とでは明らかに取り組みへの精粗が生じていた。この問題は 25 年度にもあり、その際一部実習生からは関与が低い者に対する批判もあった。26 年度はそうした者に対しては当初から参加をあまり期待しないという風潮が、参加度の高い他の実習生からはあったようである。また、展示をつくってきた学生間でもな内容の理解への差が大きかった様子で、それは展示期間中の来場者への解説にも大きな差が表れていたと考えている。

かくして、こうして出来た展示は来場者が大学の所在する地域社会としての宮崎県延岡市の様々な問題に気付いてもらうという意味で『キズク・延岡』展というテーマで平成 26 年 7 月 23 日 (水) ～ 8 月 1 日 (金) の間、延岡市民協働まちづくりセンターにおいて実施した。パネル展示が中心で、空間の中央部分が大きく空いてしまうという事から、一人の実習生が成長する街をイメージしたオブジェ制作を行ったのが今回は新しい展示表現であった。プラスチックダンボールのキューブを組み合わせたこの作品展示は、簡単なようにみえても色彩の組み合わせや荷重のバランス感が難しいものであった。それでも、表現する事に慣れていない実習生にとってはこうした制作課題への取り組みは個人に与えた影響が大きく、以後明らかに自らを表現する事への躊躇の壁が低くなったと考えている。

展示の大枠、さらには一連のデザインについては元々このテーマを提案した一人の実習生の力が大きく作用している。学内実習での企画展示を 3 ヶ年実施し、企画の推進にも様々なスタイルが生じるのが理解出来た。すなわち、グループ各メンバーの分担が一様に展開される場合と、小グループ内でそれぞれ代表的な活動を行うメンバーの活動が目立つ場合、一人のメンバーのキュレーションが大きく全体を左右する場合という風にいくつもの展開がある。実際の博物館での企画は、今回のようなワントップ型のキュレーションとなるケースも多く、どのスタイルが優れている訳ではない。

この実習ではプロジェクトベースの企画構築を実施しており、特に平成 25 年度からはこの傾向を明確化している。すなわち、ある課題に対してそれを解決すべく、デザインを考えていく事。ここでは

社会的な課題を、展示を中心とした企画デザインの実践からその解決方法を考えていくという事を目指しており、これには明確な回答がある訳ではない。ここには受講生自身が自らの知識だけでなく企画化－設計し、それを表現する力が要求される事となるのだが、こうしたクリエイティブな活動は本学の学習活動ではあまり多くはない。

それでも数ヶ月という短期間ではあるが、実習を通じてこれに関与していく学生の成長が確認しやすいというのは、彼ら自身の毎回の自己評価と、社会に対する意識への変化に表れている。特に関与度の高い実習生ほど自らの果たすべき役割が具体化し、次回に行う事に戸惑いながらも実践していく傾向があるのが理解出来る。

しかしながら、さらにこうした授業実践に対して、より実習生自身のポテンシャルを引き出していく必要がある。例えば様々なアイデアが生み出される中で、実際にそれを行うのならばどれが実現可能性が高いか、といった評価手法に対する改善は、具体化した展示作業に早く取り掛かり、よりよい展示を目指す上でも重要であると考えている。



写真 1：展示会場の様子

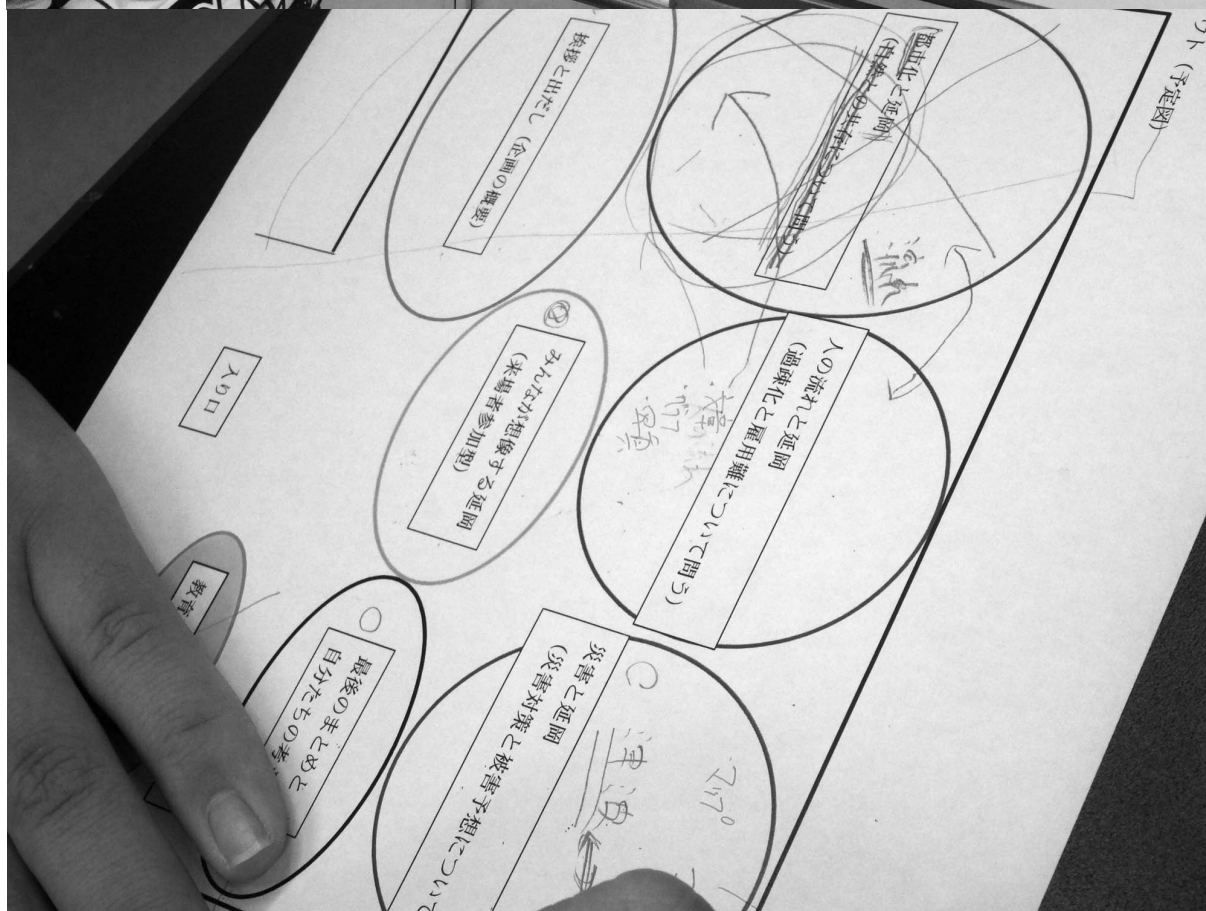


写真2：アイデアを集約していく（上）
展示動線を考えていく（下）

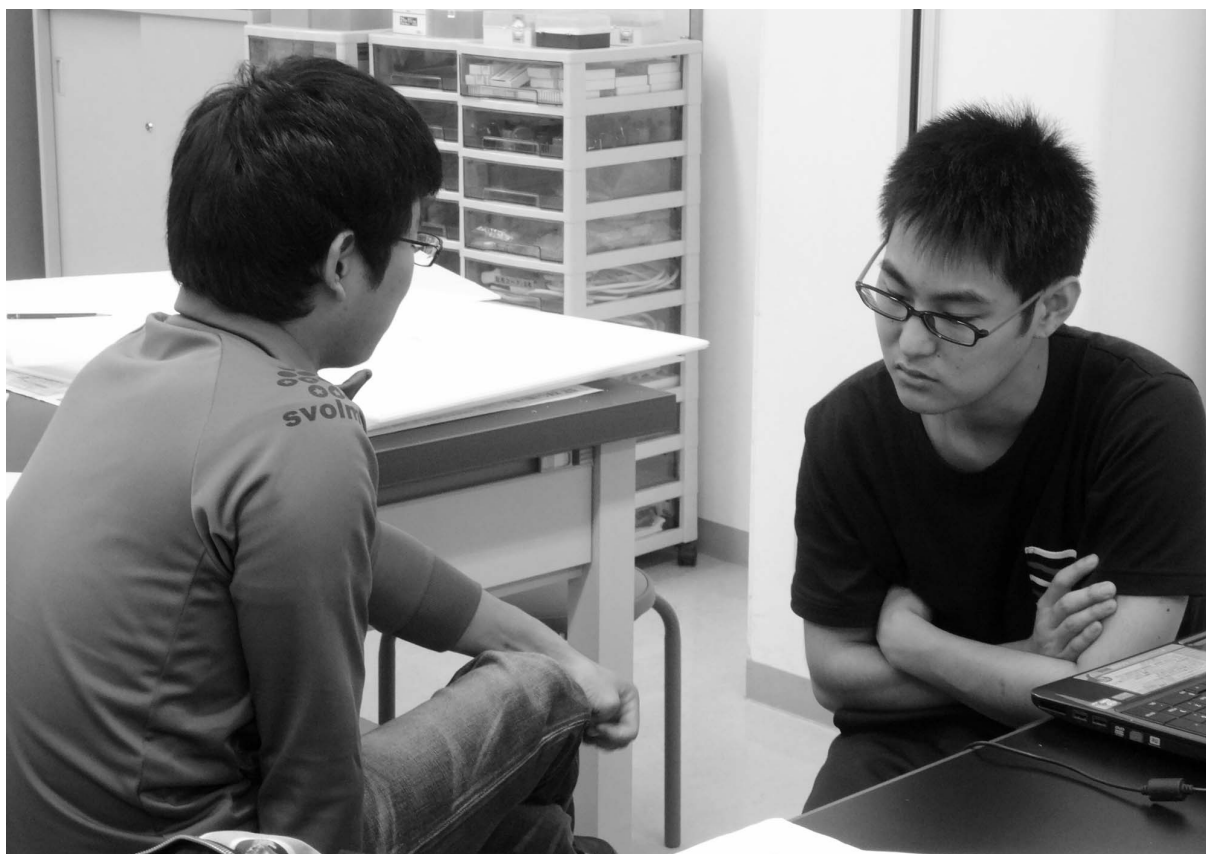


写真3：議論しながら組み立てていく2人

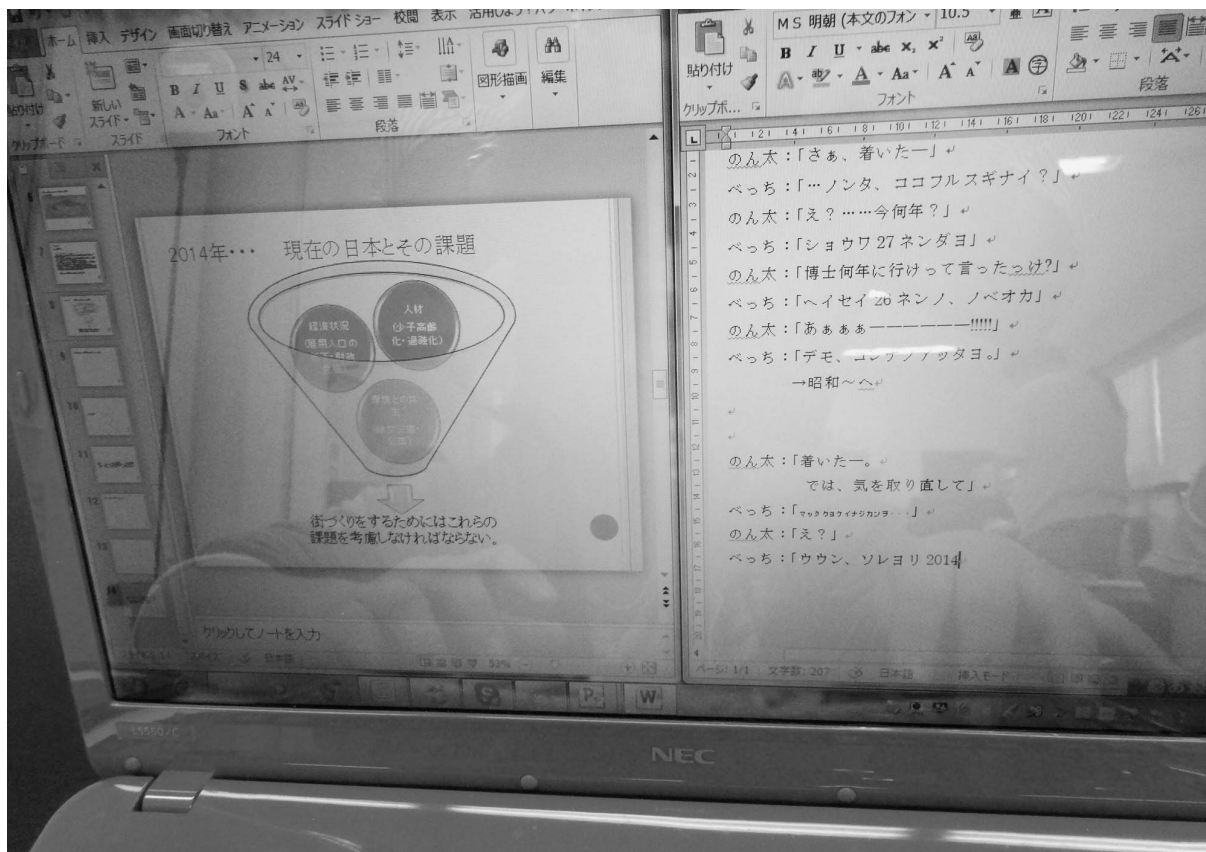


写真4：パネル原稿の作成(上)

試行錯誤のオブジェ制作(下)

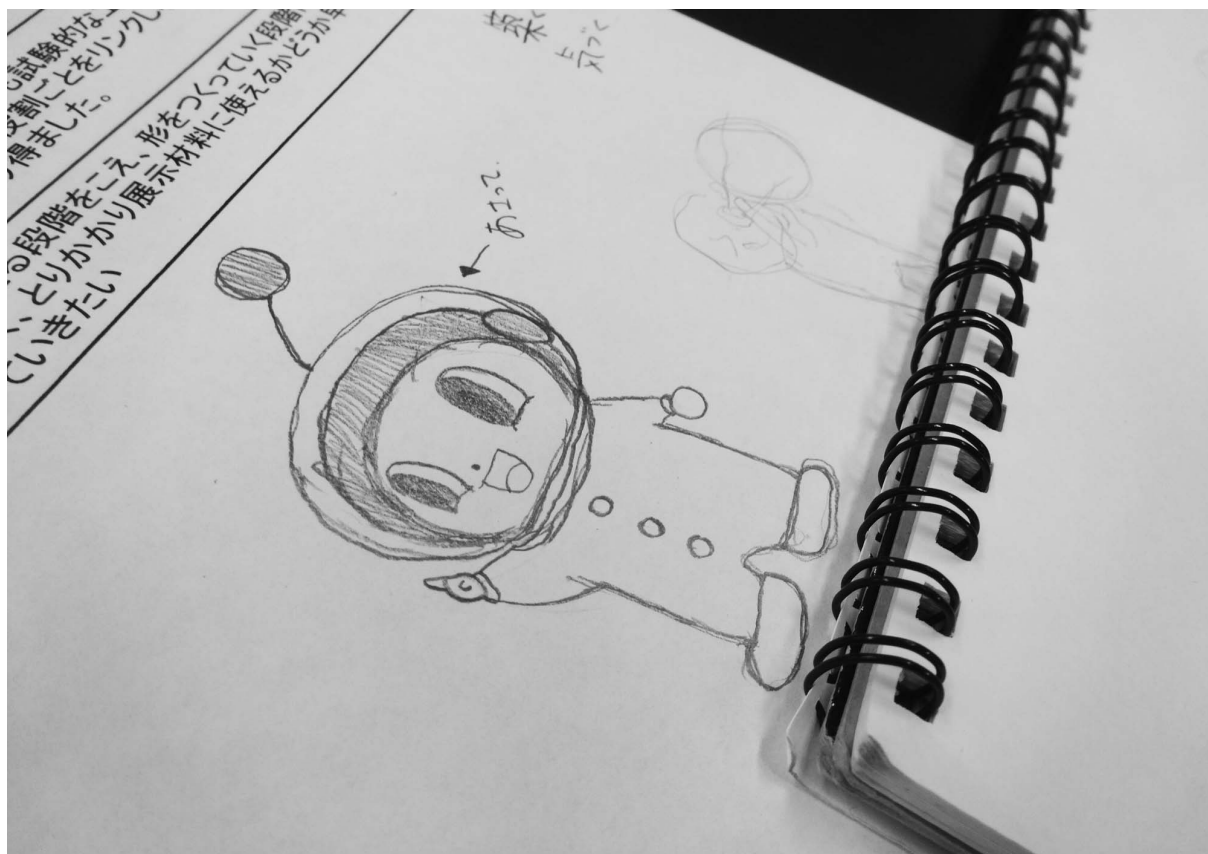


写真5：キャラクター"のん太"(上)
高齢者になってみる(下)



写真 6：パネル内容の確認（上）

会場壁面にプラスチックダンボールを設置した（下）

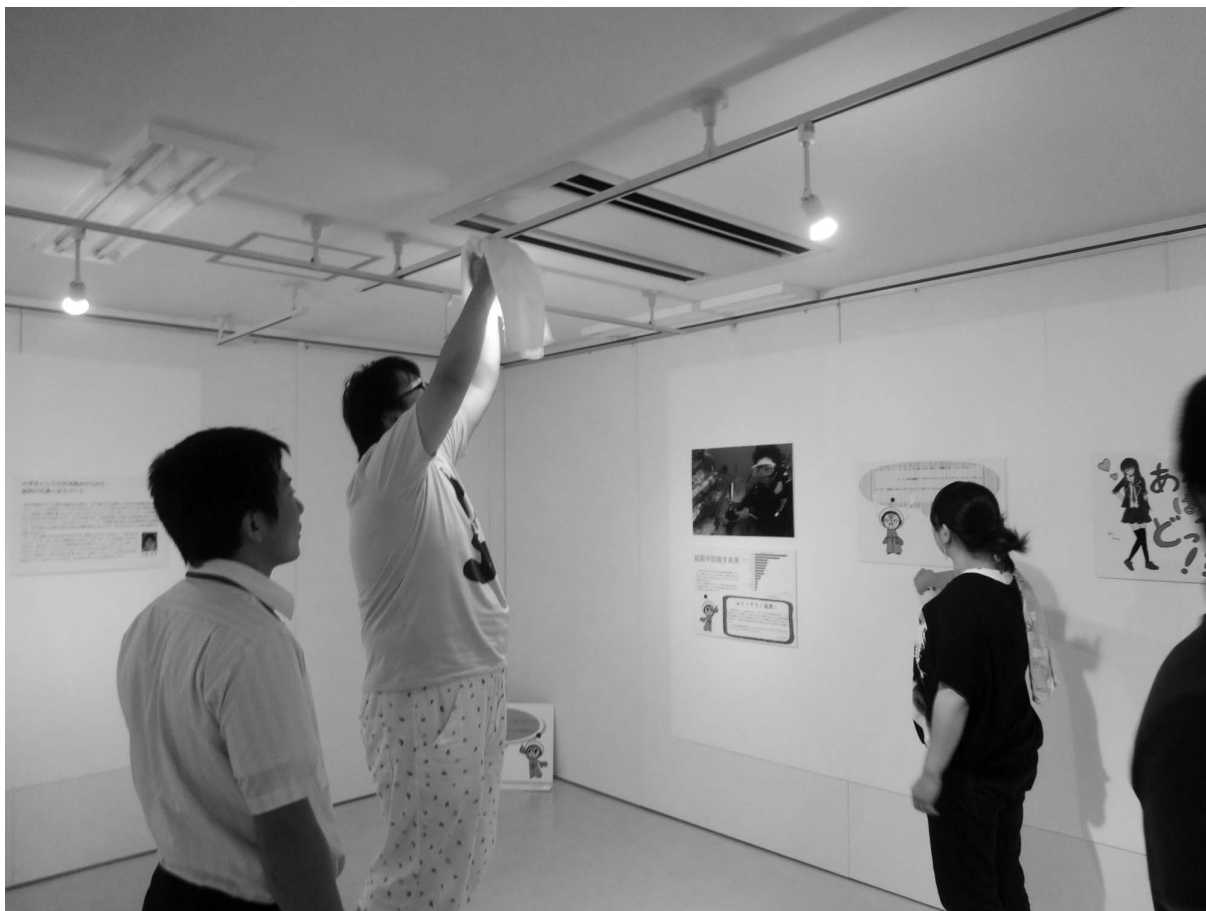


写真 7：背が高いと何かと便利（上）
ケーブルテレビの取材（下）